

令和7年度 放送番組審議会 議事録

令和8年3月
土浦ケーブルテレビ株式会社

1. 開催日時：2026年3月24日（火）13:00～14:30
2. 開催場所：土浦ケーブルテレビ 茨城局 4階 大会議室

3. 委員出欠

委員総数6名、うち出席5名

【委員氏名】

坂本 榮 （NPO 法人 NEWS つくば 理事長）
冨田 知伸 （土浦市 広報広聴課 課長）
池田 正 （水郷つくば農業協同組合 代表理事組合長）
田所 榮 （茨城県還暦軟式野球連盟）
大澤 義明 （麗澤大学 工学部 教授）

※欠席：塚本 裕 （龍ヶ崎商工会 会長、株式会社つかもと 代表取締役）

【事業者側出席者氏名】

土浦ケーブルテレビ株式会社

代表取締役社長 海老澤 孝一

株式会社ジェイコム千葉 地域コミュニケーション統括部

統括部長 高橋 正史

マネージャー 崔 誠愛

マネージャー 石井 利雄

茨城担当 長洲 茂樹

JCOM 株式会社

映像制作部 制作責任者 リージョナルマネージャー 西井 俊介

映像制作部 土浦事務所 拠点長 中田 聡一郎

映像制作部 (J:COM アナウンサー) 司会 佐藤 陽子

4. 議事次第

- ① 開会
- ② 社長挨拶
- ③ 委員紹介・会社側出席者紹介
- ④ 会長・副会長の選任
- ⑤ 事業概況報告
- ⑥ J:COM チャンネル放送実績報告
- ⑦ 意見交換
- ⑧ 閉会

5. 議事内容

①開会

定刻（13:00）となり、進行役の佐藤氏より開会が宣言された。

本審議会は、放送番組審議会規定第4条第1項に基づき、委員6名中5名出席により成立することが報告された。併せて、本審議会は公開とし、議事録は後日、同社ホームページへ掲載する旨が説明された。

②代表取締役社長 挨拶

海老澤社長より、年度末の多忙な時期にもかかわらず出席いただいたことへの謝意が述べられた。

併せて、令和7年度の番組制作および地域情報発信への取り組みについて概要説明を行い、委員からの忌憚のない意見を求めた。

③委員・会社側出席者紹介

出席委員および会社側出席者の紹介が行われた。

④会長・副会長の選任

放送番組審議会規定第3条第3項に基づき、委員互選により以下の通り選任された。

- ・会長：坂本 榮 委員
- ・副会長：富田 知伸 委員

選任後、坂本会長より就任挨拶があった。

⑤土浦ケーブルテレビ株式会社 事業概況報告

(1) 業績・契約状況

売上高、総加入世帯数等

(2) 新サービス・法人向け事業

高速 Wi-Fi サービスの提供開始 (2025 年 11 月～)

法人向け JCOM_BUSINESS サービスの事業展開

(3) 組織再編について

2026 年 3 月 31 日をもって土浦ケーブルテレビ株式会社は法人として消滅。

2026 年 4 月 1 日より「J:COM マーケティング株式会社 茨城支社」として

事業を承継し、更なるサービスと顧客体験価値の向上を目的とする。

(4) 地域貢献活動

- ・土浦全国花火競技大会後の清掃活動
- ・J:COM 旗争奪少年野球新人大会 (特別番組予定)
- ・デジタルデバイド対策 (各行政スマホ教室・土浦市スマホ貸出事業)
- ・ふるさと納税 PR 映像制作 (かすみがうら市、美浦村)

⑥J:COM チャンネル 放送実績報告 (詳細)

JCOM 株式会社 映像制作部 制作責任者 西井氏および映像制作部 中田氏より、令和 7 年度における J:COM チャンネルの制作方針および主な放送実績について報告が行われた。

(1) メディア連携の強化について

本年度の大きな取り組みとして、NHK 水戸放送局および NPO 法人 NEWS つくばとの連携強化が報告された。

NHK 水戸放送局とは、ニュース素材の相互提供を実施し、双方の取材映像を活用した放送を行った。

NEWS つくばとは、2026 年 1 月より同団体が取材・制作した映像コンテンツを J:COM チャンネルのニュース番組内で放送する取り組みを開始した。

これらの連携は、平常時のみならず災害時を含む非常時の情報共有体制強化を見据えたものであり、地域メディアとしての公共性と情報到達力の向上を目的としている。

(2) 選挙関連報道の対応

本年度は複数の自治体において選挙が実施された。従来行ってきたテレビによる選挙速報の生中継については、SNS や自治体公式サイト等の速報性向上を踏まえ、生放送は実施せず、当選者への当日取材、喜びの声や第一声の映像配信、ニュース番組内での選挙結果解説・振り返りという形で対応したことが報告された。

速報性と正確性、公共性を重視しつつ、媒体特性を踏まえた報道手法の見直しを継続しているとの説明があった。

(3) 大型地域イベントの中継・配信

土浦全国花火競技大会（第 100 回）については、記念すべき節目の年として生中継を実施した。複数台のカメラおよびドローンを活用した迫力ある映像演出。

J:COM チャンネルでの放送に加え、YouTube によるライブ配信を実施。

YouTube 再生回数は約 14 万回に達し、当日は同時間帯の配信として高い視聴実績を記録。このほか、高校野球夏季・秋季大会の生中継、各種スポーツ大会・地域イベントの中継にも注力し、「地域のライブ中継」としての J:COM チャンネルの強みを継続的に発揮していることが報告された。

(4) 防災・防犯に関する取り組み

地域防災・防犯情報を扱う番組を通じ、「安心安全サポーター制度」を継続運用している。茨城県内で 18 名が登録され、平常時の情報発信だけでなく、災害時における情報共有の担い手として期待されている。2026 年 2 月には、安心安全サポーター同士が集う交流会を実施。10 名が参加し、番組内容や地域課題について意見交換を行った。

また、同分野での連携を深めている NHK 水戸放送局からコンテンツセンター長ら 2 名が参加。災害時の情報収集・発信のあり方について知見を共有したことが報告された。

(5) レギュラー番組および特別番組

主なレギュラー番組として、「ジモトトピックス」、「全力茨城！高校野球応援部」、「マイシティつちうら」を継続制作しており、取材件数や更新頻度を維持しながら地域情報を発信している。

また、以下の特別番組についても制作・放送した。

・茨城県立高校入試解答速報番組

県立高校入試解答速報は公共性の高い番組として、県内 CATV 事業者とも連携し、サービスエリアを越えた放送を実施している。

・J:COM 旗争奪少年野球新人大会 特別番組（4 月放送予定）

⑦意見交換（要旨・詳細）

放送実績報告後、各委員より意見・質問が述べられた。

■坂本 榮 会長

NEWS つくばと J:COM チャンネルとの映像連携について、背景および現状を説明した。テキスト中心のニュースサイトから映像制作への展開は試行段階であるが、スマートフォン等の機材進化を活かし、今後提供本数を徐々に増やしたいとの意向を示した。

2026 年 4 月以降の組織再編により、視聴者・利用者側でどのような変化が生じるのか、より具体的な説明を求めた。

■富田 知伸 副会長

土浦ケーブルテレビ株式会社 事業概況報告内、(4) 地域貢献活動においてのかすみがうら市で実施された「ふるさと納税返礼品 PR 映像」の事例に言及し、その効果測定や指標の有無について質問を行った。土浦市においても同様の取り組みを検討する価値があるとの認識を示し、今後の連携に期待を示した。

■池田 正 委員

放送エリアが県南広域に及んでいる点を評価し、地域農業や JA の活動を含めた情報発信への期待を述べた。テレビ視聴およびネット配信の利便性について言及し、今後も生活に密着したコンテンツの充実を求めた。

■田所 榮 委員

茨城県高校野球の競技力低下に対する懸念を示した。番組を通じた単なる試合中継にとどまらず、指導者育成や交流試合など、高校野球全体の底上げにつながる間接的支援への期待を述べた。

■大澤 義明 委員

土浦ケーブルテレビ株式会社 事業概況報告内、(2) 新サービス・法人向け事業においての電力事業や法人向け DX、生成 AI 活用支援といった放送外事業について説明を求めた。大学教育の観点から、生成 AI を前提とした社会におけるメディア・企業の役割について意見を述べた。

■その他の意見

茨城県発祥の「シルバーリハビリ体操」を取り上げ、健康増進・介護予防に資する番組制作の可能性について提案があった。

視聴者が「知的・社会的に得をしたと感じられる」公共性の高い番組制作を引き続き求める意見が寄せられた。

会社側からは、これらの意見を今後の番組編成および事業展開の参考とし、地域に根ざした放送を継続していく旨の回答があった。

⑧閉会

全議事を終了し、進行役より閉会が宣言された。

次回開催については、後日事務局より案内することとした。